

博物館だより



No.203

令和5年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2023年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

休館日 ※情報はR5.9.19現在

◆博物館NEWS

みやこ町文化月間 みんなで活かそう、未来へ繋ごう「みやこ町の宝」

みやこ町ふるさと遺産フェスタ開催！

今年のテーマ「堺利彦と葉山嘉樹」色褪せぬ反戦とハンテンの志〜

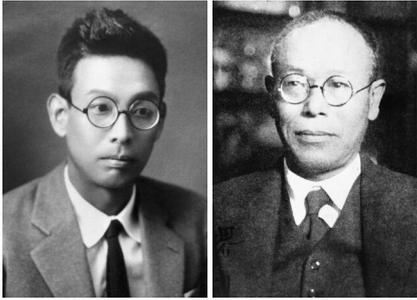
日時：10月22日(日) 場所：テーマゆかりの町内の史跡&博物館

当館では、10月22日(日)に、『みやこ町文化月間』の一環として、文化遺産を活かした学習イベントを開催します。

ここ数年、コロナ禍により各種イベントが中止されてきましたが、この中のひとつ「古墳まつり」をこの度、4年ぶりに新たな名称「みやこ町ふるさと遺産フェスタ」に改めて開催するものです。

みやこ町内にある幾多の貴重な文化遺産や町ゆかりの先人の功績などを町内外のみなさんに広く知っていただくために開催するイベントです。皆様お誘いあわせの上、是非、ご来館ください。

さて、今年のまつりのテーマは「堺利彦と葉山嘉樹」。豊津出身の二人はともに戦争の愚を唱え、社会の弱者に寄り添う活動を展開しました。今こそ二人のことを知り、私達のこれからは活かしてみませんか。



▲葉山嘉樹(1894~1945) ▲堺利彦(1871~1933)
堺は日露非戦論、葉山は戦前の不穏下でハンテン文学を提唱した



▲過去のまつりの様子(上:表彰記念撮影[令和元]/下:絵画コンクールグランプリ作品[令和4])

主な学習イベント

○午前の部(9時~11時)

★歴史たんけんウォーク

・反戦・ハンテンの原点・豊津散策

*要申込/定員15名(先着順)

*参加費200円(保険代等)

*雨天中止

○午後の部(13時~16時)

★歴史文化カレッジ

文化講演会

「堺利彦記念館建設の頃」

三人顕彰会副会長 塚本 領氏

「堺利彦と現代」

明治大学名誉教授 山泉 進氏

*要申込(定員50名)参加費無料

★まつり記念絵画・作文コンクール

入選作品展示&入賞者表彰

★葉山嘉樹資料里帰り記念展示

*詳細はHP等ご覧になるか博物館宛てお問い合わせください

◆講座教室・催し物ガイド

10月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

10月7日(土) 9時30分~

【古文書講座】

10月14日(土) 10時~

【古典かな講座】

10月21日(土) 9時30分~

【みやこ学講座】

10月28日(土) 10時~

※日程等変更となる場合があります。

※見学会等は別途通知します。

博物館で「学習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員からのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

★博物館友の会

バスハイイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア(豊み隊！)養成講座

町の宝をガイド&ガードするスタッフを募集・養成する講座です。今からでも大丈夫！



▲ボランティア活動(ワークと称した学び活動サポート)「昔のくらしと道具」学習で古い道具の実演解説

8月の業務日誌から

8月26日(土)、当館へ的小宮豊隆資料寄贈にご尽力頂いた故小宮里子様(豊隆氏三女)の納骨式が菩提寺となる華高寺で営まれました。みやこ町からは町長・教育長以下3名が参列し、故人の菩提を弔うと共に感謝の意をお伝えしました。

8月27日(日)、館内ホールを会場に「みやこの岩石・鉱物標本教室」が開かれました。教室では珍しい石や鉱物について学んだあと、みやこ町内外の岩石や鉱物を使って「オリジナルミニ標本箱」づくりにチャレンジしました。



▲ミニ標本箱づくりに熱心にチャレンジする子どもたち夏休みの自由研究にぴったりの教室となりました



▲ご遺骨は豊隆氏の生誕地・久富を見おろす斜面に築かれた小宮家のお墓に納められました

みやこの歴史発見伝 162

140年前に
外国人が調査した
みやこの町の古墳⑦

イギリス大英博物館収蔵資料から



ウィリアム・ガウランド(1842~1922)

一人であるウィリアム・ガウランドは日本の金属技術の発展に尽くした人物で、この業績に対して明治政府は彼に勲章を授与しています。彼は造幣寮の業務とは別に、明治11年(1878)に外国人で初めて槍ヶ岳に登頂した人物であり、「日本ア

ルプス」という名称を考案するなど、日本山岳界でも大きな足跡を残しています。このような様々な業績の中でも彼が日本に残した最大の功績は、勤務の合間に実施した日本各地の古墳の調査記録です。彼は九州から関東の15府県にわたり、横穴式石室古墳406箇所を調査し、そのうち130箇所では実測図を作成しています。この時

彼が確立した古墳の測量手法は、現在もなお国内の発掘調査で用いられていることから、彼は現在「日本考古学の父」と称されています。今回、彼が残した調査記録等の大英博物館収蔵資料を改めて詳しく調べてみた結果、140年前の秋に彼が九州で調査対象にした古墳や史跡名を断片的に確認することができました。最初に記載されているのが明治16年(1883)9月17日の薩摩国分寺跡(鹿児島県)の調査で、その後、10月9日には西都原古墳群(宮崎県)に現在宮内庁が「陵墓参考地」に指定している古墳の調査を行っています。その後、大臣塚古墳(大分県)の調査を経てみやこの町に向かっています。みやこの町における調査の中でも、特にみやこの古墳調査を切望したとみられ、みやこの町やその周辺では5箇所の地名や史跡名を確認できました。(資料1)

た。」と記されています。彼は橘・綾塚の両古墳を調査した後、黒田村から七曲峠(みやこの町勝山松田)を通って香春町(⑤)でも1基の古墳の石室を調査したことが確認できました。香春町でガウランドは現在、宮内庁の陵墓参考地に指定されている「河内王陵」など数基の古墳調査を行って

綾塚古墳の調査から140年
明治16年(1883)にイギリス人、ウィリアム・ガウランドがみやこの町勝山黒田にある「綾塚古墳」で実施した測量調査から本年10月17日で140年の節目を迎えます。彼は明治初期の政治的に不安定な時期にも関わらず、みやこの町勝山まで足を運び、調査を行っています。またこの時に作成された石室実測図面が現在、イギリスの大英博物館に収蔵されています。近年、彼が残した調査記録や大英博物館収蔵資料をもとに、調査の日時やルートを復元することができました。今回は、140年前に彼がみやこの町で行った古墳調査を

札が発行されたのは昭和59年(1984)で、その20年後の平成16年(2004)に現在の紙幣に変更されています。さらにこの20年後にあたる来年(2024年)には新たな紙幣が発行される予定です。このように現在、紙幣は約20年ごとにデザインが変更されていますが、新たなデザインは500円硬貨は2年前に大阪造幣局で発行されています。今から152年前に明治政府によってこの造幣局の前身である「大阪造幣寮」が開業しました。しかし当時の日本には貨幣製造の技術者がいなかったため、その指導者として明治政府は7名のイギリス人技術者を招聘

しています。この技術者の一人であるウィリアム・ガウランドは日本の金属技術の発展に尽くした人物で、この業績に対して明治政府は彼に勲章を授与しています。彼は造幣寮の業務とは別に、明治11年(1878)に外国人で初めて槍ヶ岳に登頂した人物であり、「日本アルプス」という名称を考案するなど、日本山岳界でも大きな足跡を残しています。このような様々な業績の中でも彼が日本に残した最大の功績は、勤務の合間に実施した日本各地の古墳の調査記録です。彼は九州から関東の15府県にわたり、横穴式石室古墳406箇所を調査し、そのうち130箇所では実測図を作成しています。この時

彼が確立した古墳の測量手法は、現在もなお国内の発掘調査で用いられていることから、彼は現在「日本考古学の父」と称されています。今回、彼が残した調査記録等の大英博物館収蔵資料を改めて詳しく調べてみた結果、140年前の秋に彼が九州で調査対象にした古墳や史跡名を断片的に確認することができました。最初に記載されているのが明治16年(1883)9月17日の薩摩国分寺跡(鹿児島県)の調査で、その後、10月9日には西都原古墳群(宮崎県)に現在宮内庁が「陵墓参考地」に指定している古墳の調査を行っています。その後、大臣塚古墳(大分県)の調査を経てみやこの町に向かっています。みやこの町における調査の中でも、特にみやこの古墳調査を切望したとみられ、みやこの町やその周辺では5箇所の地名や史跡名を確認できました。(資料1)

た。」と記されています。彼は橘・綾塚の両古墳を調査した後、黒田村から七曲峠(みやこの町勝山松田)を通って香春町(⑤)でも1基の古墳の石室を調査したことが確認できました。香春町でガウランドは現在、宮内庁の陵墓参考地に指定されている「河内王陵」など数基の古墳調査を行って

- ①Buzen Miyakogun Toyotsumura (資料1)
- ②Tenshoda mura
- ③Gosho-ga-tani
- ④Buzen Kurodamura Ayadzuka Oct17/83
- ⑤Kaharu-machi

る古墳時代の土器に貼り付けられたラベルに彼が「豊前 京都郡 豊津村」と出土地を記載したもので、甲塚方墳(みやこの町国作)に関連する資料とみられます。②は論文中にみられる「テンシヨウダムラ」という村名を指したのですが、これは彼が「天生田村」を音読みでローマ字表記したものとみられ、外国人には難解な地名でも正確な記録に努めた彼の姿勢が伺えます。③は御所ヶ谷神籠石(みやこの町勝山大久保・犀川木山、行橋市津積)を指しますが、彼はこの遺跡を「景行天皇の宮殿跡」という興味深い見解を論文に記しています。④は①と同様に大英博物館に収蔵されている古墳時代の土器片に貼り付けられたラベルで「豊前黒田村綾塚 1883年10月17日」と解説できます。この記載内容は綾塚古墳の測量調査日を特定するための一つの資料として注目されます。また、この土器片は彼が綾塚古墳で唯一発見した遺物とみられ、論文中には、この土器の他「橘塚古墳では多数の土器片が散乱してい

(井上信隆)